

Title	ECにおける電力輸出問題における一考察
Sub Title	
Author	早坂房次(Hayasaka, Fusaji) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第712号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0712

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 早坂房次
(東京電力株式会社)
所属ゼミナール 小林規威研

主査 小林規威
副査 藤枝省人
青井倫一

ECにおける電力輸出問題における一考察

EC（ヨーロッパ共同体）においては、1992年を目指して市場統合の努力が進められている。この動きの中でECは市場統合に電力自由市場構想を含ませようとしている。ヨーロッパ諸国は長年に渡って電力の多国間融通を行ってきた。第1に、ECの新しい政策が、電力多国間融通にどのような影響を与えるかを研究することを問題意識とする。更に、英国では現在電気事業の民営化に取り組んでいる。この英国電力民営化の行方を研究することも目的とする。これはECの電力自由市場構想の行方を考える上で役立つからである。また、現在の日本の状況と問題点を比較することによって、電気事業の将来に役立つ何等かの手がかりを得たいとも考える。

1992年のEC統合計画にはエネルギー市場の統合は含まれてない。しかし、EC委員会は、1995年までに電力輸出入の障害を取り払った電力自由市場構想を持っている。これは各国間で相互に接続された送電線網を、「コモン・キャリア」化することで需要家が一番電気を安く供給できる国から買えるようにしようというものである。

本論文においては日・英・欧の相互比較による①水平的視点と、ECの政策の持つPUSHの側面と関連エネルギー市場の変化からくるPULLの側面からの②垂直的視点の2つの視点より分析が進められる。更に、PULLの側面はエネルギー需要の増大による量的拡大の面と、他の関連エネルギー市場の変化による質的側面の2面より捉えることができる。そして、現在英国で進められている電力民営化計画は、発・送・配電各部門を垂直的に分割民営化しようというものである。英国電気事業民営化の行方はEC電力多国間融通の将来を考える上で役立つ。これが本論文の分析フレーム・ワークである。

本論文の結論は、電力自由市場構想には制度的限界・本来的限界があり、実現は困難である。従って、現在ある多国間融通制度の発展こそ現実的であると言える。